

八重山病院「医療崩壊の一步手前」 職員もコロナ罹患で診療維持が難しく

7/12 琉球新報



【石垣】 県立八重山病院の和気亭病院長と医師らは11日、石垣市の同病院内で記者会見を開き、新型コロナウイルスの5類移行後の感染拡大により、医師や看護師らが感染して人手不足となり「医療崩壊の一步手前だ」と窮状を訴えた。緊急性の低い手術や入院はすでに延期しているとして、市民に対し、診療制限せざるを得ない状況に理解を求めた。

和気病院長らは患者の対応に追われる院内と、感染対策への意識が薄れている社会との「温度差」に、現場の看護師らは疲弊してぎりぎりの精神状態になっていると明かした。

同病院はコロナ病床を15床準備していたが、それを上回る入院患者が発生し、一般病床を転用して対応している。現在22人が入院し、3人は重症だという。

医師や看護師、事務員ら28人がコロナに感染して出勤できず、その他22人が濃厚接触者で出勤が不安定な状況に追い込まれている。

救急科の竹島茂人部長は「コロナは重症化しないと誤った認識の人がいる。いまこの瞬間も患者が搬送されて来ている。医療が崩壊しかけている」と訴えた。

立花祐毅医師は「本来なら入院できた患者ができなくなっている。病院と住民の温度差を埋めたい」と述べた。與那覇博康副院長は「コロナは5類移行したがウイルスが弱ったわけではない。現場は2類相当の気持ちで対応している。現場が疲弊した状況で踏ん張っていることを市民に知ってほしい」と強調した。

和気病院長は「コロナは終わっていない。職員も罹患し、医療は逼迫している」として、市民に手指消毒などの基本的な感染対策の徹底を求めた。

▼救急受け入れに 21 カ所問い合わせ、現場で 94 分待機も…



コロナ拡大の沖縄 6 月 27 日から 7 月 3 日の間にあった救急搬送 1813 件のうち、受け入れ病院が見つからず 1 件の搬送で 21 カ所の病院に問い合わせた事例があることが 5 日、県防災危機管理課への取材で分かった。新型コロナウイルスの感染拡大による急患の増加が背景にあると見られる。

県内各消防から報告を受ける同課によると、最新のデータでは救

急搬送時に医療機関へ 4 回以上照会したのは 53 件（前週比 16 件減）だった。搬送先が見つからず、現場に 30 分以上待機したのは計 90 件（同 14 件減）で、最長待機時間は 1 件で 94 分だった。

新型コロナウイルスの流行拡大により複数の医療機関では救急医療を制限しており、救急医療も逼迫（ひっぱく）している。そのため県は軽症者の受診は控えるよう呼びかけている。

（嘉陽拓也）